

第10回

栄光OBフォーラム

2018年12月15日(土) 13:30- (受付開始13:00)

栄光学園 小講堂・聖堂ホール 入場無料

第一部:基調講演 第二部:パネルディスカッション

ご家族ご友人をお誘いのうえご参加ください。フォーラム終了後にお茶、軽食をご用意しています。



ロシア・ワールドカップは世界を変えるか!

2020年東京オリンピックを控え、注目のスポーツイベントが目白押しとなっています。

今回のOBフォーラムはスポーツを軸とした話題で盛り上がります。

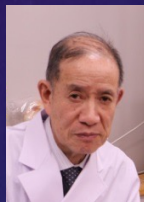
サッカージャーナリストである大住良之氏(18期)のワールドカップロシア大会観戦記を皮切りに、ロシアビジネスのコンサルタントである菅原信夫氏(18期)にはロシア社会観やロシア社会の特徴を、福林徹氏(13期)からはスポーツ医学面からの進歩やロシアなど諸外国との比較など、さらには、鎌倉市にお住いのスポーツ評論家玉木正之氏を特別にお迎えして巨大スポーツイベントと社会のつながり、そして2020年東京オリンピックまでになすべきことなど、サッカー、ロシア、スポーツ、世界を縦横メッシュでお話いただきます。



大住 良之 (18期) サッカージャーナリスト

基調講演・パネラー

1951年横須賀市生まれ。一橋大学卒業後、1974年に(株)ベースボール・マガジン社入社、「サッカー・マガジン」編集部勤務。1978年同誌編集長。1982年に同社を退職し、(株)アンサーでトヨタカップなどの来日チームの取材や大会プログラム作りを担当。1988年フリーランスのサッカージャーナリストとなる。雑誌や新聞などに幅広く寄稿してきたが、現在は『東京新聞』での試合評とコラム、『日経電子版』でのコラムを中心に活動している。『東京新聞』で毎週水曜日夕刊に掲載されるコラム「サッカーの話をしよう」は、1993年4月以来25年、1200回近くの連載になっており、その記事のすべてがアーカイブサイト「サッカーの話をしよう」(<http://www.soccertalk.jp/>)で公開されている。ワールドカップ取材は、1974年の西ドイツ大会からことしのロシア大会まで11回となった。



福林 徹 (13期) 東京有明医療大学 特任教授

パネラー

1982年東京大学医学部整形外科、1996年筑波大学臨床医学系整形外科、2004年東京大学総合文化研究科、2017年早稲田大学スポーツ科学部、現在、東京有明医療大学 保健医療学部 柔道整復学科 特任教授。一方、国内外における学会役職を務め、各種学会活動に積極的に取り組み、我が国におけるスポーツ整形外科的発展に貢献した。また、公益財団法人日本サッカー協会では、スポーツ医学委員会委員及び同委員会委員長を務め、「リーグのチームドクター及びトレーナー制度の確立や、平成7年からサッカー日本代表のチームドクターとして合宿及び大会時に帯同し、我が国サッカー界の悲願であったワールドカップ出場に向け、選手を陰ながら支え、平成10年に開催されたサッカーワールドカップフランス大会への出場という快挙に貢献した。



菅原 信夫 (18期) ロシアビジネス専門コンサルタント

パネラー

ロシアビジネス専門コンサルタント「スガハラアソシエーツ」代表取締役兼ロシア法人「Business Eurasia」エグゼクティブファウンダー、横浜商科大学、神奈川大学、青山学院大学、獨協大学の非常勤講師を兼任。1974年伊藤忠商事入社、1976~78年ハーバード大学一般教養大学院(GSAS)にてソ連地域研究プログラムを専攻後、モスクワ駐在。1994年伊藤忠商事退社、米国非営利法人「国際教育交換協議会(CIEE)」副社長兼日本代表。日本におけるTOEFL事業を統括。1998年、日本企業のロシア進出支援のためスガハラアソシエーツを創立、2004年モスクワに現地事業会社Business Eurasiaを設立した。2012年、日本人駐在員および家族のロシア語教育のため「Eurasia Language Center」をモスクワに創設。日本ロシア語教育研究会会員。2017年度「ジェトロ・ロシアビジネス支援専門家」、ジャパンビジネスプレス(JBPress)<http://jbpress.ismedia.jp/>のロシアコラム契約執筆者。



玉木 正之 (特別ゲスト) スポーツ文化評論家

パネラー

現代の日本のスポーツ評論の第一人者。スポーツを中心に非常に幅広い知識をもち、競技面だけでなく、文化面、社会面など多角度からの人間味あふれるスポーツ評論は他の追随を許さない。1952年京都府京都市出身。カトリック系の洛星高等学校時代にはバドミントンでインターハイに出場した。東京大学中退後は編集者、雑誌記者として活動、テレビでコメンテーターを務める一方、小説も手掛け、1994年の『京都祇園遁走曲』は「京都発・ぼくの旅立ち」としてNHKでドラマ化された。ライフワークはスポーツであり、ベースボール、サッカー、ラグビー、大相撲などに関する多数の著書をもつ。そのなかでも、現在日本のスポーツ界を震撼(しんかん)させている体罰問題を鋭く論じた『スポーツ体罰東京オリンピック』(NHK出版2013年)は、これから東京オリンピックに向けて必読の書といえる。ことしの9月20日には、R・ホワイティング著『ふたつのオリンピック』(角川書店)を翻訳刊行した。

■主催/申込先 栄光学園同窓会 鎌倉市玉縄4-1-1 ☎0467-44-8875

[E-mail] admin@eikoalumni.org [HP] <http://www.eikoalumni.org> [EACON] <https://eacon.alumnet.jp>